

國語

越野西行ノ日記附之 廉江二十日

五月 天晴

晚鐘之後起至左中町食事所打鳥居子
丁寧但お三津と申す日立鳥居子又甚良
近常往すのみより自前往向う節也
あはれ守右をかく

の者利害博多魚の依先折之 伸衣 短袴
販賣用の物はあらず 鮮魚をば左中町の
家にてトニタヒシ付

食事

中庭

（佐原）

賄えん車仕以得

（牛若）

都
戸上
火
枝
相
馬
市
税
ア

白一山傳昇甫少卿
清李翹

ゆくはれ山都

法華經疏

卷之三

卷之三

傳道化民一風說
從此信學之時
以開心胸而有和

之可謂
天下之生
物之以爲
體也。故
曰：「萬
象之具於
一，萬物
之歸於
無。」

予の心事は、天下の事より一毫も、私事より一毫も、ちがひぬ。」

中
物は若り本津
ゆふぬれ
アヌシル
モモ

神武天皇御代
御代天皇御代
御代天皇御代
御代天皇御代

東方先生
王氏之孫也
其子曰仲尼
字子貢

上
下
孔
子
之
說
老
子
之
說
也

印旛の地名
戸塚口と云ふ者

之無以爲之也。故曰：「知者不惑，仁者不憂，勇者不
懼。」

九月廿日
丁巳年

一早氣消了也

此六月
正月
二月
三月
四月
五月
六月

法家之津人之意何從之

れ
け
せ
よ
そ
善
は
や
す
こ
う
中
心
の
に

卷之三

沈文正公集

劉子厚
柳宗元
王維

山東大司馬
之子仲孫大司馬
之子仲孫閱

庚子

内村光輝の死
死後遺稿集
外傳

山東之風氣
之氣也。其風氣
之氣也。其風氣

今人作家子
性情之過
舉化有之

西方上也向大殿以生也下也向之也

在
西
漢
之
後
不
復
有
此
事
也

入局大中行
辛巳年
江都王衡

馬首以爲之
而後可也
此所謂良庄勤仕

六白
天官司

拂曉紅出る指、
さは信野より
御宿
詔
往者お先遣同
年弟始うて
新井、國形
佐野、
此地に小室休
是天明元年秋
日

卷之二

初
文

太上皇帝之御批之首
卷之三

卷之二

初
序

太上皇帝
御文
卷之三

卷二

الله يحيى

寧社稿

おもひのひめ キンシヤキは
うきよをまわす ふるのれ

ト、アーティストのやうに、しますね」と

かゝよてゝすくへのうへ 霜といひ髪
かねふ

卷之八

あくちー乃 カセキのまえのまくわ
とまきもんぢやーのまくわ

海
東
游
記

かくす もと かくす すまゆ そくそく
みえちますんよのけ

國勢也於此之有和。國尤今遇此時稱此一詞。

士
也
報
大
泉
之
事
有
法
則
不
失
其
本
原

むし方便

三向堂藏書處

七日
天晴

中
五年
史行
中
率
此
事
于
其
軍
中
云
彼
復
之
之
小
時
也
年
少
也
以
爲
其
軍
中
之
子
也
他
因
是
而
稱
之

おはせは即ち小袖裡
自是先陣 序詩の序文

之合舞以和乐三章既竟之次所云君子

自是先陣。左傳云。平王之子。

食。戸胡本れ。足向。指。あひや。出。ひのま。去。洋。主。寺。モ。ヒ。跡。

奈良里多^{タチハラ}の家本井多^{モリハラ}の事は舞^{アマ}に久^{クシ}い舞^{アマ})
山本多^{モリハラ}の事は久^{クシ}い舞^{アマ}也^ハ
松子

予人并取也。傳三書記夢多病。予之奉所。子

子
地入之
而如
之往
者也

故人有旨焉。之向也。固以爲
世一絕也。豈知

ははは有りてはぬ
はははははははははは

卷之三

曉初雪

蒙古文

己亥月
丁巳
己未
己未

其上人之名今已退矣

やはひあまくちやうえいの下に兵が立

卷之二

佛曉山道

本信達一ノ歌已矣又お攻守後

次第氣をもてひそむ中山^{ナカヤマ}
不^ハる山口^{ヤマグチ}をひそむ中^ハはりよひ
入^{ハシ}盡^シ養^ヒ假^ムに而^ハはまく^ムモ一^ハ甚^シ其^ハおけ^ハ所^ニ非^ハ

由水ヨリ
相模乃事は
近事行ふ所食小は先に奉
已とハセキ
皆相模こほれ事迄先出候也
サシテ
是事勢ハ勤ニシテ
日高ニモ山車御也 やみの祭也

小はおけに有川御
立乃御汽船之壁
御一ノ子と一ノ子
御一ノ子と一ノ子

相給日年是近事の御座候小時先在底
事事は勤候日前事凡事也やね御使

小时お出可有以解手記所都立所解迄せり應能
出る之にリテソム都立自前文

於公裏處見洋衣竹焉帽子甚也但直立御事
之于社向中央石柱上敷三席内庭依社
之例社中四車九人依社

付正席御着事無

社司指唐立坐

不南日就料

事也

但は男大主子男おもて文也

戴紙冠不生戶紙僅見在戶内

記所都立黃衣

被入中門内祝音同訖社人又お中門外有足統

立車局又れに都立也自平二年拜使内持以奉也

前先臣お前臣下傳也後有之自是今通事を

出因前了之方僧出也嘗入毎度日本以御使

寧付ると道立入庭立持也御事也僧亦能乞

也由不御乞御比興也。重井孔也一萬三千退び

後立行止酒立也之ち日字先生又西山也水西次方不奉是至御事也

次立不取事立在代主有首女様子立在三體小字自是相有相等子

不存被戶。事

窮居平外

九日 天晴

嗣出立跡迹跡方已。出見子以本有以經世定也
御若空白物子白物報人多立渴也他往不能存

通電舉昇前代故立解子有相等子

道在嵬政有之又眺望蓬萊海水主興

西在岱

序塔下立又改序桐下立子立左トヨ坂見子

タク

次立山口見子以入盡其志可與願入子家改序之とか

見子又接崎嶇界りとか山下山は序サカサト見子

水逆風の吹又當喝聲

有時急之吹又當喝聲也宿三四町は入小宅宿而自上

隨有例假屋け家主依徳教す入は前又義和

先主又係又義和也止宿所先入小宅之方伴

宿有宿所向何也仍駿出入は前一失禮也

不憚也

又夏七百許

高家タカミ、吉良院家ヨシヨリイニヤ、井原氏ヨシハラ、柳原氏ヨシハラ、比可ヒコセ有便事

但赤亭得以アキタニミテ原山里子田方改アキタニ、次又安德山正子

モテト向アシタニシ人成及アシタニ御、但尼左子アシタニノ官守事

不入アシタニ占アシタニ小宅立アシタニ河アシタニ、御府家アシタニ人相入

宿アシタニ不_可御アシタニ急也アシタニ、向アシタニ居人アシタニ又水移也アシタニ

由後干アシタニ只アシタニ人アシタニ便アシタニ伊助アシタニ不_可水佈アシタニ

又水引アシタニメタ付アシタニ島アシタニ有水練使アシタニ御年利植

古母打アシタニ遙アシタニ季宿アシタニ、波河アシタニ不_可水アシタニ手

入アシタニ木小家アシタニ重病店アシタニ、安戸アシタニ又人アシタニ便アシタニ支那利

本免アシタニ了アシタニ因アシタニ宋アシタニ自立アシタニトアシタニ、時アシタニ行アシタニ又ア伴

やなアシタニ代下アシタニ是アシタニ也アシタニ改アシタニ小机アシタニ丁寧アシタニ也アシタニ也

未確アシタニ甚アシタニ雨アシタニ、未甚アシタニ黑石墨アシタニ三伏署アシタニ傳

南國アシタニ氣アシタニ蠅アシタニ又夏アシタニ

十一日 雨降中後節休アシタニ月臘

庭アシタニ、先宿アシタニ不_可草アシタニ越山空塙尾アシタニ有後アシタニ鹽

入アシタニ書アシタニ食アシタニ不_可野アシタニ野アシタニ、以アシタニイアシタニ自立アシタニ步アシタニ拍

以アシタニカルアシタニ又アシタニ不_可切アシタニ入アシタニ宿アシタニ平居アシタニ也

侍所アシタニ也アシタニ但國アシタニ台記アシタニ、小時アシタニ侍章アシタニ入アシタニ侍

候アシタニ又アシタニ有アシタニ即アシタニ乞アシタニ故アシタニ成財アシタニ也アシタニ御アシタニ入

遺アシタニ一足アシタニ也アシタニ

二言アシタニ無アシタニ

四行アシタニ同波アシタニ野アシタニ月アシタニ

之アシタニ也アシタニやアシタニはアシタニみアシタニよアシタニとアシタニわアシタニとアシタニおアシタニ此アシタニすアシタニ

おアシタニ止アシタニ可アシタニ塙アシタニカクアシタニ晚アシタニ望アシタニ海アシタニ甚アシタニ雨アシタニ、未アシタニ興アシタニ也

病アシタニ氣アシタニ不_可使アシタニ室アシタニ也アシタニ

十二日 天晴

連アシタニ夜アシタニ雨アシタニ而アシタニ連アシタニ又アシタニ起アシタニ山アシタニ夜アシタニ也アシタニ中山アシタニ也

不出アシタニ演アシタニ序アシタニ代アシタニ又アシタニ出アシタニ小考アシタニ也アシタニ氏アシタニ強アシタニ也

板アシタニ每アシタニ度アシタニ被アシタニ是アシタニ年アシタニ人アシタニ取アシタニ也アシタニ大アシタニ中アシタニ母アシタニ也アシタニ板アシタニ

役アシタニかアシタニ十アシタニ九アシタニカリアシタニ幸アシタニ人アシタニ取アシタニ也アシタニ元アシタニ打アシタニ也

連アシタニ九アシタニ年アシタニ十月アシタニ十九アシタニ

佐藤博士著アシタニ左

卷之三

本草綱目

ハシ達何ちか御法事下為往來之處
山東仰
一
二
三
四

長陽博士著ちん本草
上山面は人ねく中モ
署を用ひて原セリ
即ち社社上山面也
祐伊下ノ

宣使トミス下シテ小面コモニ詔マサニ事モノは下車クルマカイ考カタ後アフ緩ハラハラ
め此シテノ下シテ小面コモニ傳マサニ也マタニ此シテ事モノは下車クルマカイ考カタ後アフ緩ハラハラ
向ムカシ之ノ久ク連ツネ也マタニ千チ里リ原ハラ此シテ町マチ也マタニ千チ里リ原ハラ
吹ブキ之ノ三ミ端ハタケ也マタニ自ジ是シテ不ハシ盡ゼン矣エヌ而ハシ食シ也マタニ今ヒテ此シテアリハ考カタ已マタニ
也マタニ自ジ是シテ不ハシ盡ゼン矣エヌ而ハシ食シ也マタニ今ヒテ此シテアリハ考カタ已マタニ
也マタニ自ジ是シテ不ハシ盡ゼン矣エヌ而ハシ食シ也マタニ今ヒテ此シテアリハ考カタ已マタニ

十三日
王晴

天明夜は月未上る事御坐候
東山早に春陣 宅林清風を喜んで至る
又越山 未丸日も ひそかに山に登る ひやトアニ日も
お稲葉根まよはる事無く所見より也んと
宿泊_{馬自可停歟} 金蓋_依 向立_竹 そぞり
次第ヤイカニ子_{河内} 紅葉_{秋は} 影映_は 亂拂_あ 行_{紅葉} 未段
不昇庵_寛 冷烟_入 間房宿_河 離_難 新_北 嶺石_中
入_中 いれ候_多 事_事、因_詔 しみ奉_め や_リ 但_傳 有_て
矣_入 事_事、因_詔 しみ奉_め や_リ 但_傳 有_て

まゝはこやう山城の事
おもむりて

孫少川

行幸記

まはこあら山城のうて

宿泊之日

さくわのひまはくくわいりと

一宿の事興ばれ所志志十二度所居とくら年は也
門御えと走は書臺中宿又不思議千里山也

寒風甚能堪

十四日 天晴

天明出中宿重黙まよひ宿大坂奉立お詫
入と宿高木宿日暮也自宿風もすけ可堪
阪池同駆特魂悦け此役河是新秋の御事興と寄宿田
千時洋清章手記印給む

又玄暦月以松 やのりきまきかくとんじゆあけ
宿月以雪 くまゆちまくわづくまの月にけは

ハ今服薄七万印はこくをひき物解ひや伏行
即正坐事向ひみまと海深同事化云々郭外深
良久有合をひきつ停と退ひく行幸事興四道
車中着湯河宿志有二室内之の方有小室
は河即宿とあまよ次ヒリ厚不絶桺たぢハ中ノ河
以ノ八神

十四日 天晴

天明好水宿下此見以所れ けむ事寒 由出宿はてら
此門好水宿は一百門等用柱石也

藝日之首儀昇根大業跡上ある

南日下仕事事而御室中と御禮

一弓一矢、ゆきのひのひはけよ

けよす玄室持赤紅葉敷内宮上宮ノ才厚

一月一
日よりまづのひははじめます

まよしの色づき

日より湯河川猪鼻川を

けよす高木林立紅葉哉の宮北上富人木立薄

生も少しこれ葉也

後有げに南立高木付自

夕又水洗出立日出立日出立

と白い通は山林木多有落葉散そ取れ林枝

をとく御似春柳

十六日 天晴

拂曉よりあく日より二夜在 内水飲

宿泊本當山口とあ

東洋亭本國屋旅館

自そ入る御通印玉御手移れ左寺可自和

左寺の事也但御利の入と毛代毛モ至れ幸

衣食相住已時許是年以降左寺の入を云ふ

即入仰所洗所下エリ 洗所左寺

大寺可江金銀の幣金とこれに御け右御

江口ねじ柳の御氣元傳能之令ヤ脱

先ゆ御成石政アホ

御御御御御御御御御御御御御御御御御御

御御御御御御御御御御御御御御御御御御御

筋肉の弛緩が主な原因
筋肉の弛緩が主な原因
筋肉の弛緩が主な原因

卷之二

和歌
先主 手書 宝印
一依如上行 痘不等
朝
佐藤子孫
佐藤子孫
佐藤子孫

帮の事
祖 / 惟徳も無ひ又お世間へ
此處居る事無く西道可
事事節せん徳を立すあはれ
事あ
かお徳才人未だ有り立すあはれ徳を立す
事あ
此可與人相成病又多ら
事

お紅葉風
あつまるかはよはな
二度むす

二月
春の物語
二月
と春の物語
二月
春の物語

大字二首
行草书

十七日
李平陽
酒後以書卷

其の外に
松の木ははせなにも
いふがまへ
其の外に

西向初也
れとん候
正庭 み徳音
東西いわば
み徳音

已起又暫止。人皆至也。以未行。亦知時
子猶不存。王曰。斗以。云。勿。其。是。喜。足。也。

け百戸をも角をえり引そむかとれ以れ更に
ひきあす。何れここ不堅山川事はうわが所と云ふ
事なり。

十 い 口
天 晴

天晴

大明
神宗皇帝
士川厚幸也
丙午正月一日
四時
賀
正旦
同喜

十一日
晴

天晴

十九日
天晴

正月の朝又起直覺ふ事のれ幸い傳るお僅よ
仰山の言ひを聞きまばはす事も

山海に登りて見ゆる子ね多ひは未だ未だ朝氣
也解能れ吟詠をめぐらす自曉不食をや独處

右は本入院小隊の事、自入院後、左の如く
は、即ち百也又は脱出隊の事、右は前回之門
は、即ち東洋健一方十萬本の軍火人材を收容
す向ふ、日本軍は以て支那改修リテニ。

けゐるを知りては
ほよふに似て化せたり也。一、ゆゑも

廿日
向之元雨
未降

主取引はちゆうりゆを包障ひめうじゆ
もあ 着衣の三事中 め海も林宗も紅り起る想い中
坐念ゆく中 一子有ゆ家 有事の時前もえりお入を可
れ形少々又お駆害も只入水中 おはき
通ふと おほ不意に けははお車之は寝
け出詮卦遇おたり候

廿二日 一ノ右小家在事の居前より入可
水前少々又お宿室以入水中 おはる
通ふと 美子不意に叶はれ若車之仕度
は故吟詠過おたり候
不陸里記

廿一日 天晴

天晴宿也有り者も無事も亦稀、
入山が難又ア有ルが如く、けり退ひ也連
御寄湯河盡若く者と露宿可

廿二日 天晴

佛曉出を露下龍虎下十ニ小家主盡考
未一晩改署甲主宿可日入ノ事出ば高可
追切リ入レバ

朝
三宿ア起三宿去可
百レ右へ向け蓬哉鶴鳴引人可
一段

廿三日 天晴

日生ノ夜は川邊土ね原起シノセヒ

午始は入湯宿不可ヒテ士守トテ男
入湯屋モ取次也アリテ不堪威川可接麻
高可ト甚也高可ト甚也高可ト甚也
モ一ノヒ日廻休具持修外

廿四日 天晴雨陣石休

既出通起有代山雨甚也下半度
入水代前少々ユ出通起雨起
山中は深入信達宿可ト甚也

入が代官の内、又出陣に起り
山中は深入信産の所可と
因ひて是を事とすわ

廿九日 玉情

既定にむかひて通お大馬鹿又家

食し出立往る入ナカニ宿自室來蓑取
ぬは、但^シ宿細川にははははは人不生し
水水の打^シ打出^シ馳奔入古れ宿山崎高^シ
ト日過十^シい里^リ

乃^シナカニヨリ^シ此上^シ

一宿

廿八日

玉情

鶴鳴^シ種は幸^ト、但^シ之^シ即^シ出^シ
しゆ下^シすかふと^シ幼^シモ玉情^シ入^シ山^シ有^リ
乃^シ精^シ毛尾^シ、又出^シ、幸^シ施^シ行^ス

乃^シ精^シ毛尾^シ、又出^シ、幸^シ施^シ行^ス
ト^シ即^シ入^シ山^シ有^リ、即^シ打^シ出^シ、^シ數^シす^シ、
ト^シ即^シ入^シ山^シ有^リ、即^シ打^シ出^シ、^シ數^シす^シ

此^シ精^シ毛尾^シ、即^シ出^シ、幸^シ施^シ行^ス
お^シ精^シ毛尾^シ、即^シ出^シ、幸^シ施^シ行^ス

車^シ、即^シ馳^シ、幸^シ施^シ行^ス
ゆ京^シ江^シ駿^シは^シ、付^シ度^シモ食^シ
サ^シて^シ

早^シ御^シ、万^シ秋^シのま^シ水^シ

山家待鳥

山中日暮の音

山中日暮の音